

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.110
2024. January

発行者 琉球病院事務部長
大城 英作

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である



謹 賀 新 年

院長 福治 康秀

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、あらゆるところでお世話になりました。

昨年は、新型コロナウイルス感染症も次第に落ち着き、感染症法上第2類から第5類に移行しました。それに伴い、社会経済活動も次第に活発となりました。良かったと思います。当院の新型コロナウイルス感染症病棟も縮小し終了しました。これまでに、150名あまりの精神科疾患を伴う新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れました。その際には、各関連機関の皆様大変お世話になりました。どうもありがとうございました。新型コロナウイルス感染症病棟の縮小に伴い、閉じていた依存症治療を主とした病棟を再開しました。また、各種専門医療と精神科救急医療もさらに発展させていく決意です。

昨年6月には、真栄里仁副院長を迎えました。真栄里先生は、久里浜医療センターで長年依存症医療の中心を担い、また依存症医療に限らず幅広く精神医療を展開してきました。また、多くのマネジメントも経験しております。当院のアクティビティを上げるべく、邁進しているところです。今後のテーマは、各関連機関とのさらなる連携です。皆様とはあらゆるところでご相談する機会が多いと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

今年の干支は「甲辰(きのえ・たつ)」だそうです。「甲(きのえ)」は十干の1番目、生命の循環で言えば最初に位置し、生命が誕生した状態を表しています。また、「甲(きのえ)」は、「陰陽五行思想」では「木の兄」と表記し、これは「木の陽」を意味します。五行の「木」は生長、柔和、曲直、春の象徴です。「陽」は積極的や大きいといった意味です。つまり「甲」は、急成長、寛大、屈曲、発展といったことを表しています。「辰(たつ)」は十二支の5番目で、草木の成長が一段落し、整った状態を表しています。要はすべての新芽が葉を広げ、降り注ぐ日の光を全身で浴びている中春のイメージです。「辰(たつ)」は「陰陽五行思想」では「木の陽」に分類されます。前述したように五行の「木」は生長、柔和、曲直、春の象徴です。つまり「辰(たつ)」も、急激に成長することを表しています。このように今年の干支「甲辰(きのえ・たつ)」を「陰陽五行思想」で読み解くと、「春の日差しが、あまねく成長を助く」となります。成長を助ける春の日差しは、表に出ているものばかりではなく、日ごろ隠されていたものにまで寛大に広く注がれ、成長や変化を促すことを表しているのです。実は、私が「甲辰(きのえ・たつ)」の生まれです。今年が、私にとっても、そして皆さんにとっても、大きく成長する年になると確信しています。今年もよろしく願い申し上げます。

● 地域医療連携室だより

精神保健福祉士 伊禮 有香里

地域医療連携室では初診の相談だけでなく通院中、入院中の方の経済的な相談、就労に関する相談、社会資源に関する相談など様々な相談をお受けしています。患者さんやご家族の方、支援者からの相談など様々な方からのご相談があります。地域医療連携室の場所は受付隣となっておりますのでお困り事がございましたらぜひお気軽に連携室までお声かけください。

院 長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会評議員。
琉球大学医学部 臨床教授。

診 療 科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病 床 数

353 床

- ・精神 151 床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44 床
- ・児童思春期ユニット 4 床
- ・重症心身障がい 90 床
- ・医療観察法 37 床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

お 問 い 合 わ せ

時間 8:30 ~ 17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地 域 医 療 連 携 室 (直 通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例数は延べ402例になりました。2023年11月のCLZ導入数は1例で、これは他の医療機関に長期入院中の紹介患者さんでした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、隔離や身体拘束は、ほとんどの症例で解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://drs-net.novartis.co.jp/dr/product/clozaril/guide/>)でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

看護部

副看護部長 西口 悠架

当院では、沖縄県中部～北部地域を中心に精神障害を持つ患者さんを受け入れています。精神科救急病棟を中心に、統合失調症、感情障害、認知症、物質依存症など、精神科領域のあらゆる疾患に対応しています。地域で生活されている方はもとより、急性期病院からのご紹介も増加しつつあります。身体疾患で治療を受けつつ、精神症状の出現等により苦痛を感じられている方々にも対応できるよう、その患者さんの状況に合わせ、クロザピン病棟や依存症病棟、社会復帰病棟など治療・療養環境を調整し、多職種の医療チームで日々ケアに取り組んでいます。

また、患者さんが地域での生活に移行し定着できるためにも、入院中から生活自立への支援と訪問看護や作業等・デイケア、地域の関係機関との連携の充実に取り組んでまいります。

重症心身障がい医療

療育指導室長 金城 安樹

11月10日～11日、全国重症心身障がい児（者）を守る会 第23回九州・沖縄ブロック熊本大会が、くまもと森都心プラザにて開催されました。メインテーマ「いのち輝く障がい児者の可能性とは」のもと、各種記念講演やトークライブ等が行われました。あるご家族との会話から、「私達は成長させられているんですよ、その事に気づいていない人もいるんだよね」と話されていた事が印象に残っています。大切なご家族を施設に託す想い、声なき声を代弁しようとする想い、守る会の皆様と過ごすなかで、ご家族の気持ちに寄り添える機会を頂く事ができました。そして、守る会の皆さんを支えているのは、重症心身障がい児者の皆さんの力だという事を改めて実感させて頂きました。



医療観察法病棟紹介

西Ⅲ病棟師長 湧川 傑

当病棟は医療観察法の指定入院医療機関として運営しています。医療観察法は、心神喪失または心神耗弱の状態で大々な他害行為を行った者が裁判所の命令で入院し、病状の改善と同様な他害行為の再発防止、社会復帰を促進することを目的に入院治療する病棟です。また、医師・看護師・心理療法士・作業療法士・精神保健福祉士の5職種で、チームを編成し専門性の高い治療を行っています。また、急性期・回復期・社会復帰期の治療ステージだけでなく、疾患、重複障害などの個別性に合わせた多様な治療プログラムを提供しています。

開棟16年が経過し、以前は県外の方も多く入院されておりましたが、全国的に医療観察法が整備され、現在は沖縄県の方を中心に受け入れており、那覇保護観察所や県内の指定通院医療機関、地域支援者と連携し、社会復帰を促進しています。

外来部門 — 子ども診療科 —

外来師長 伊敷 史子

外来部門において、子ども診療科（予約制）の診察治療を行っています。対象年齢は1～15歳となっております。当院受診に来られるお子さんについて以下の点があります。また、下の項目になくとも気になる点がありましたら、ぜひご相談ください。子ども診療科においては、お子さんが健やかにその子らしく成長できるようご家族や学校の方々とも、発育や発達状況のとらえ方、状態に合わせた関わり方を一緒に考えます。お子さんの事で何か気になる事があれば、家族内で悩むだけでなく、まずは外来・地域連携室へご相談ください。

	お子さんのこんな事がきになる	お子さんへのアプローチ
就学前・学齢期	言葉の発達、落ち着きがない、友達と遊べない、こだわりが強い、これからの就園・就学について 等	発育状況や発達の遅れ、偏りの心配、情緒・行動の問題に関して相談・評価・診断・治療や療育を他職種で行います。
思 春 期	他人の視線が気になる。友達とうまくいかない、学校に行きたくない、気分が沈んでいる。やる気がでない、自分を傷つけてしまう 等	自分自身についての悩みや不安、仲間関係や異性関係、自立をめぐる親子葛藤など思春期の不安や適応の問題についてお子さんの希望をふまえながら相談、治療を行います。